

はじめに

グローバル化や科学技術の急速な進展など社会は大きな変化し、これからどのような社会になっていくのかを見通すことは難しく、私たちはさまざまな要素がからみあう問題に直面しています。新型コロナウイルスの世界的な流行による混乱は、まさにその典型例といえるでしょう。こうした未踏の時代に、社会的に自立し、たくましく生き抜いていくためには、想定外の事象や未知の事象に対しても、持てる力を総動員して主体的に解決していこうとする力を培っていくことが必要です。何をすればよいかを、誰も教えてくれない状況でも、さまざまな情報を集め、考え、判断し、行動しなければなりません。そのような行動をとれるようになるためには、知識ももちろん大切ですが、それだけではなく、知識に基づいて考えて判断したり、自分の考えを伝えたりするときに、思考力・判断力・表現力等が必要になります。

本校では、「自ら学び、考えを深めることができる児童の育成～論理的思考力を養うための指導法の工夫～」のテーマのもと、研究2年目を迎えました。本研究では、「論理的思考力」を「自分の出張に対し適切な根拠をもち、筋道立てて考える力」と捉えました。そして、低・中・高学年ブロックに分かれ、「甲府スタイルの授業」をもとに、「動き出したくなる課題」「確かな発問」に焦点を当てた研究授業を積み重ねてきました。さらに、その後のワークショップ型の研究会をもとに、日常の授業改善を進めてきました。そこでは、課題設定や発問を工夫することにより、考える場面によって比較して考えたり、関連づけて考えたりすることを大切にしてきました。そして、友達の意見を聞き、みんなが納得する理由や根拠を考えるなど考えを交流する場を充実させてきました。児童は、「なんで?」「そうか」「なぜか」というと、「違う考えですが」など、自分一人で、また友達と話し合っ、考えが深めたり、広めたりしています。このように、学習課題の提示や指導方法の在り方、学習形態や板書・発問の工夫、ICTの有効活用などの指導法の研究を深め、子供が生き生きと学習できる手立てを講ずることによって、「主体的・対話的で深い学び」による授業の創造が始まると考えます。

今回、研究途中ですが、今年度の研究の内容を紀要にまとめることができました。今年度の成果を生かし、残された課題に向かって今後とも努力をして参りたいと存じます。皆様のご指導、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、研究を進めるにあたり、学習会及び公開授業、授業研究会にご出席いただき、丁寧で適切なご指導、ご助言をいただきました甲府市教育委員会学力向上専門員 加賀美猛先生、山梨大学教職大学院 准教授 角田大輔先生、山梨大学教育学部附属小学校 石川和彦先生、山口国之先生に、心より感謝と御礼を申し上げます。

令和5年3月 甲府市立玉諸小学校長 山本 英寿